

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年6月14日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503544		
法人名	株式会社 愛光園		
事業所名	グループホーム バラの家 うららユニット		
所在地	福山市沖野上1丁目3番11号 (電話) 084-928-6123		
自己評価作成日	平成25年6月4日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3471503544-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成25年6月14日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

認知症ケアの研修、様々な研修に常勤非常勤問わず職員が参加し、ケア向上に向け取り組んでいる。介護職として必要な知識・意識を持ち仕事に生かしていけるよう、毎月の会議でスタッフに資料配布しテーマに合わせた話し合いを行っている。認知症ケア、介護上の疑問や改善点について、その都度スタッフ間で話し合い、ケアの統一につながるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームバラの家は利便性の良い住宅街で、緑町公園が近く環境の良い場所にありません。代表者、管理者、職員は「一人ひとりの尊厳を大切に、明るい笑顔でゆとりを持って接するよう努める」を理念とし、実践に向けての共通意識を持ち日々取り組まれています。職員は研修に参加、勉強会の開催と積極的に知識、技術のレベルアップに努力され、利用者とのコミュニケーションを図りながら生活機能維持向上に支え合う工夫がみられます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「入居者の思いと尊厳を大切に明るい笑顔でゆとりを持って接しましょう」の理念を玄関に掲げ、職員が毎日唱和し、一丸となって利用者本位の暮らしが出来るよう取り組んでいる。	バラの家の理念を基に、日常の場面でどうなのか、その都度、何かに付けて理念を問いただすケアに取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会行事や公民館活動に参加したり、散歩時に地元の方々との会話や触れ合いで交流を深めている。	地域行事に参加し、交流を図りつつ散歩や、買い物などの際、挨拶や会話をし、地域のお茶会に招待されて地域の方とのつながりに努められている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	職員が認知症アドバイザーとして地域の人々に認知症について理解し支援してもらえるよう活動している。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度開催し、家族、民生委員、行政、利用者、職員、管理者、代表で様々な意見を持ち寄りサービス向上にむけている。	2ヶ月に1回、平日と土曜日の交互に開かれ、家族、民生委員、包括支援センターの職員、代表者、管理者の出席があり参加者の多くの意見を聞き、日々のサービスに活かされている。	
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	職員が認知症アドバイザーをしており、市・町・社協・地域包括支援センターとの連携を取っている。	市役所、包括支援センターと連携がとられ認知症アドバイザーの職員が公民館などで地域の方に講演されて、地域の方に認知症について啓発されている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員を設け、毎月身体拘束について話し合いをしている。例えばセンサーマットを設置しなければならない場合でも、「利用者の行動制限をするためではなく、利用者が安全に次の行動に移れるよう、次の行動につなげるよう使用している。」など、使用する理由を明確にし、自分たちのケアが拘束にあたらぬか話し合い、意識統一を図っている。	身体拘束について研修を受け、会議では話し合い、全員が理解されている。拘束について日々のケアの場面で実施指導をし、言葉使いなども気をつけ確認を行いケアに取り組まれている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	委員を設け、研修に参加し報告伝達を行っている。どういった行為が虐待にあたるのか、会議時に勉強会をしたり、日々のケアの中で気になる点があればその都度話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	研修に参加し、制度について勉強している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に説明、制度改定時には各関係者(ご家族様)に運営推進会議や文章でご理解をしていただけるようにしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様からクレームやご意見をお聞きし、改善に努めている。	運営推進会議での家族の意見や要望、面会時に気軽に話してもらえるよう聞き取り、それを会議で全員話し合い改善に努められている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度の全体会議やユニット会議、業務の中でスタッフから意見を聞き、改善に努めている。	代表者、管理者は全体会議ユニット会議での意見を聞き、各委員会で話し合われた事を発表し、全員が意見や提案を出せるような雰囲気づくりをされる。会議で話せない時は申し送りの時、協議し改善される。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	労働体制を工夫し、スタッフの要望を聞いている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勉強会を開いたり、研修に参加している。研修は業務とし、交通費、参加費など全て事業所が提供し、学びやすい環境にしている。理解度によっては必要に応じて個別に指導している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	職員同士の交流は機会が作れていないが、管理者の生活圏域の「オアシス会」に参加し質の向上に向け情報共有の取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の言葉を受け止め、表情や様子をしっかりと観察させていただきながら、関わりを持つよう勤めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	必ず挨拶をし、細かくご要望を聞いたり、利用者のご様子をお伝えしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護記録に細かく様子を記録し、申し送りでしっかりと伝え、スタッフ全員で利用者把握に努めている。問題点はすぐに検討し対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	調理などの家事や、生活全般において職員と利用者が共に行い、お互いが感謝の気持ちを伝え合っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の不安や要望を聞かせていただき、その気持ちを共有しながら良い関係作りに努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今までの習慣を続けられるよう支援している。馴染みの物を居室に置いていただき、安心できる居室作りに努めている。	家族、親戚、近所の方の訪問があり職員は馴染みの関係が途切れないよう支援されている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者一人ひとりを把握し、状況に合わせて利用者同士が関わり合いを持てるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	今はしていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者、ご家族の想いをできる限り聞かせていただき、対応について検討している。日々の生活の中で利用者の気持ちを確認しながら自己選択していただけるように働きかけている。	利用者の意思表示がわからない時、いろいろな方向から見ながら何気ない一言や、仕草を察して、その方の思いの把握に努められている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者との会話やご家族からのお話を通じて、その方の生活歴を知り、一人ひとりの今までを把握するよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録や申し送りノートを活用しながら、スタッフ間でしっかりコミュニケーションを図り情報を共有している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	スタッフの気づきを伝え合い、話し合いの場を設け、必要に応じてサービス内容を変更している。	職員全員の気づきを出し合い、会議や申し送りの際、状況変化がないか、常にサービスが機能されているか状況を見て内容を変えておられる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	細かな気づきを記録に残し反映するよう努めている。個々の介護記録用紙に「特記事項」の欄を設け、体調やご様子の変化があれば必ず記録するようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者一人ひとりのペースに合わせた生活が送れるよう支援している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	スタッフと一緒に近隣のスーパーやコンビニに行き買い物を楽しんだり、美術館で作品の鑑賞をしたりしている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	週一回、または何かあれば必要に応じ往診受診がある。	24時間対応のかかりつけ医の往診が週1回あり、緊急時にも対応され安心な支援がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医療機関の看護師が必要に応じて医師の指示のもと対応してくれる。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院先の医療機関でカンファレンスに参加し話し合いを行っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>ご本人、ご家族の意向を医師を交えて話し合い、職員もターミナルケアについて研修を受けている。医療行為の必要がある場合、看護師が派遣される。</p>	<p>入居の時、終末期におけるホームでの対応と、家族、利用者の思いの話し合いがされる。状況変化があった時、医師、家族、職員で話し合い、家族の思いを大切に医師の指示を受け、医療行為が必要であれば看護師が派遣される。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時や自己発生時のマニュアルを各ユニットに設置している。定期訓練は行っていない。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>スプリンクラー設置をしている。避難訓練を定期的に事業所内で行っている。地域の協力体制での訓練は行っていない。</p>	<p>消防署の指導のもとに避難訓練、消防訓練をされる。事業所独自でも避難訓練がされ、そのとき慌てないためにも細かい指導があり緊急対応の体制作りが行われている。</p>	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。</p>	<p>常に心がけているが、そうでない場面が見られたときは、その都度指導している。</p>	<p>利用者の気持ちを尊重し、親しき中にも礼儀ありの気持ちで、常に会話には気をつけて接して、プライベートを損なわないよう配慮されている。</p>	
37		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。</p>	<p>日々、自己決定ができるような声掛けを心がけている。接遇委員でも毎月話し合い、問題があれば改善するようスタッフに伝えている。</p>		
38		<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ご本人のペースに合わせるよう想いを聞きながら支援するよう努めている。スタッフ本位のケアをしているような場面が見られたら、改善するようその都度指導している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に訪問美容院に来ていただき、ご本人の望むヘアスタイルを聞いている。その日着たい洋服を選んでいただくようにしている。希望があれば、マニキュアや化粧をしていただいている。	/	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの能力を見極め、食事作りや片付けを一緒に行うようにしている。食材購入など買い物に利用者で行くようにしている。	個々の能力に合わせ食事作り、片付け、買い物と一緒にされ、好みの物を選ばれ献立にされたり日常生活の営みとして楽しまれている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	家庭料理を中心に一汁三菜を心がけている。肉食魚食を交互に提供するようにバランスを考えている。水分摂取しやすいよう寒天ゼリーを作り利用者に合わせ提供している。利用者の変化を把握し、状態に合った食事の提供ができるよう意見を出し合い支援につなげている。	/	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	利用者それぞれの状態に合わせたケアを行っている。歯科開催の口腔ケア研修に参加し知識を深め技術向上に努めている。	/	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	24時間排泄チェック表を活用し、具体的な排泄パターン把握に努めている。それぞれの方に合ったトイレの声掛け、排泄用品の使用を工夫している。	一日分の排泄表を活かし一人ひとりの排泄パターン、習慣をみながら声かけ誘導し、リハバンとパットを利用者が選ばれて必要な排泄用品を使用され改善につながっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便記録表に毎日記入し便秘予防として牛乳や寒天ゼリーの提供、毎日の体操で少しでも体を動かすことで、便秘予防につながるよう努めている。	/	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者の希望、タイミングに合わせて気持ちの良い入浴が出来るよう配慮している。	利用者の要望を優先し、体調を見ながら入浴を楽しめるよう入浴支援される。毎日はいられる方、拒否される方があり、タイミングを見て声掛け、気分のいい時支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者の生活スタイルを把握し眠りやすい環境づくりを心がけている。起床時間、就寝時間はそれぞれの利用者の体調やペースに合わせている。	/	
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者の服薬しやすい形状にいただくよう主治医にお願いしている。服薬時にはスタッフ二人確認を行い事故防止に努めている。スタッフが利用者の薬について把握するよう努めている。	/	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご本人にお聞きしたり、生活歴より引き出し、料理の好きな方、カラオケの好きな方、晩酌を好む方、花の世話の好きな方などそれぞれに継続していただけるよう支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩をしていただいたり、花見や外食などを希望時、季節ごとに行っている。ご家族には季節ごとの花見などに参加していただいたり、金銭的な協力をしていただいている。	その日の体調を考慮し、買い物や散歩に行かれ、近くの緑町公園では花も多く季節を楽しまれる。家族の協力で花見やドライブ、初詣に出かけられる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	その人の能力に応じたお金の使い方をしていただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由に使っていただいている。郵便物はご本人にお渡ししている。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共同スペースは明るさ、温度に気をつけ、状況に合わせて音楽を流している。廊下は夜間の不安さを考えセンサーで明かりがつくようにしている。	リビングは広くて明るく、みなさんが集まって楽しめるスペースになっている。和室では横になり休まれる方、ソファでくつろぐ方、家庭的な雰囲気ですっきりと過ごされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを2席設置し、利用者同士で交流が持てるようにしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、生活用品など今まで使っておられた馴染みの物をなるべく持ってきていただくようにしている。一人ひとりの好みで居室をしつらえている。	利用者にとって使い慣れた家具、生活用品が持ち込まれて、居心地良い生活空間が保たれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	歩行動線を確保し「トイレ」「便所」などの表示をして自立支援のため工夫をしている。		

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が 家族等の3分の2くらいが 家族等の3分の1くらいが ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームバラの家

作成日 平成 25年 6月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	利用者の状態把握と個別ケア実施	個別ケアの充実	・研修への参加 ・勉強会開催	一年
2	13	感染症予防・事故予防・虐待防止・身体拘束などについてスタッフ間の意識統一	各委員会の機能向上	・研修への参加 ・勉強会開催 ・ユニット会議の定期的な開催	一年
3	27	スタッフの知識・技術のレベルアップ	スタッフのスキルアップ	・研修への参加 ・勉強会開催	一年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。